

令和8年3月6日

神奈川県知事 黒岩 祐治 様

神奈川県ボランティア活動推進基金審査会  
会長 中島 智人

令和8年度実施分ボランティア活動補助金の対象事業の  
決定について（答申）

令和7年10月30日付け県サ第1195号をもって諮問のあった標記について、別紙  
のとおり答申します。

問合せ先

かながわ県民活動サポートセンター

基金事業課 湯川

電話 045-312-1121（内線 2831）

(別紙)

令和8年度実施分ボランティア活動補助金の対象事業の決定について

1 選考結果

(継続事業)

(単位：千円)

番号	申請者名	事業名	補助金額
1	特定非営利活動法人 Fun Place 39	持続可能な障害者スポーツ活動の ための人材育成と理解促進事業	1,000
2	特定非営利活動法人 ちいき未来	キッズビデオワークショップと かながわ・わがまち映像祭の開催	380
3	NPO法人 多文化共生ボランティア団体 KAM	県内2か所における日本語学習支 援	1,000
4	特定非営利活動法人 Small Step	医療的ケアに関する啓発資料作成 およびその配布	1,000

(新規事業)

(単位：千円)

番号	申請者名	事業名	補助金額
5	一般社団法人 市民連帯経済つながるかながわ	共生型居場所ネットワーク構築事 業	1,000

## 2 意見

### (1) 継続事業

#### 【特定非営利活動法人 Fun Place 39】

#### (持続可能な障害者スポーツ活動のための人材育成と理解促進事業)

前年度に引き続きパラスポーツ指導人材育成事業が着実に進められていることが確認できました。修了生は団体にとどまらず他団体でも活躍されているとのご説明もあり、パラスポーツに対する理解や協力の輪を広げていくという本事業の目的にかなった形で事業が展開されています。また、事業を進める中で主催イベントに大きな可能性があることを見出し、それを理解促進事業と位置付け、育成事業のフィールドとしても活用していくなど、機会をうまく活用して事業を広げられていることも高く評価しました。

他方で今年度の講座参加者が計画を下回っていることは、質疑応答の中でもお伝えしたように募集のターゲットが明確でないことや、適切に情報提供がなされていない等の要因があると考えられます。5人という人数ですので、理解促進事業も含めたつながりの中で相応しい方に声をかけるという方法も考えられるかもしれません。合わせて受講促進には認定制度の認知を高めることも必要でしょう。次年度事業の中での改善を期待します。

また、将来的には行政の委託事業を目指して事業を継続されるとのことですので、そのための調整や基盤づくりが必要になるでしょう。加えて、次年度、補助金額が増額していることもあり、同様の事業を継続するには自己資金の充実も不可欠です。こうした点も含め、次年度は令和9年度以降の展開を見据えて事業を進められることを期待します。

## 【特定非営利活動法人 ちいき未来】

### (キッズビデオワークショップとかながわ・わがまち映像祭の開催)

児童養護施設や発達障がいサポート NPO 等での映像ワークショップ、個別支援級での授業サポートなどにより、日頃映像制作体験を得にくい子ども達にも広く作品を創り上げる機会が提供されていること、映像祭の開催により発表や交流の場も設けられていることが審査会で高く評価されました。発達障がい児童が、短期間のアニメ制作で、「びっくりするような作品」を生み出したという事例も報告されており、今後も多様な作品が生み出されていくことを期待するところです。

しかしながら、一方で、これからの事業推進にあたっての課題も見出されました。まず、補助金の交付先団体である「ちいき未来」の内部における理解と共感の醸成です。質疑応答で、本事業は、「ちいき未来」に加え、「キッズディレクター」「湘南市民メディアネットワーク」「岩崎学園」との連携で推進していることが分かりました。各々が強みを持ち寄るのは良いことなのですが、事業継続に必要な基盤が補助金交付先団体内に築かれることが望まれます。団体内部の人材の巻き込みも図って頂きたいと思います。それとともに、連携体制による多様な取組にあたっては、役割分担や責任の所在が曖昧にならぬよう常に整理しながら進めていくこと、さらに財務面を含めた事務管理体制をしっかりと整備することも求められます。

そして、今後の事業展開への期待として、既に取り組まれている山北町に加え、映像制作の機会を得にくい中山間地域などにも事業の波及効果がもたらされることが挙げられます。また補助金終了後に向けては、質疑応答の中で触れられていた、企業との連携強化や協賛金の獲得、受益者負担の仕組みの検討なども望まれるところです。この先の構想として描かれている「ユースメディアセンターの設立」「映像教育プラットフォームの構築」に向け、団体が深く関わりながら、団体内部にも成果を残すよう着実に歩を進めていかれることを期待しています。

**【NPO法人 多文化共生ボランティア団体KAM】**  
**（県内2か所における日本語学習支援）**

生活者や子どもを対象にした日本語学習支援（高座渋谷）、海外ルーツの小中学生を対象にした日本語と教科の統合型学習教室（綾瀬）の2つの事業を前に進めていこうと、試行錯誤しながら展開したことが見て取れます。高座渋谷では公共施設や他団体とも協力し、順調に事業を行いながら地域にも根付きつつあることが審査会で高く評価されました。

その一方で、綾瀬は苦戦している様子が伝わりました。参加人数の伸び悩みや、その背景に保護者の意識の問題といった課題があるようです。ただ、そういった状況にある子どもたちにこそ団体のような支援が重要です。質疑応答において、学校や地域団体と交流はあるとの話がありましたが、それらの先や同様の支援活動を行っている団体などとも連携を深め、子どもの支援に加え保護者の意識改革にも取り組むなど、課題を解決する方法を見つけていただきたいと考えています。

昨年度の質疑応答で、理事間で各事業の情報交換は行われているとお聞きしましたが、現状、高座渋谷、綾瀬の活動はそれぞれ独立しているように見えます。取組や地域特性は異なってはいるものの、現場のスタッフも加えるなどして情報交換やノウハウ共有を行うことが、課題解決の糸口を見つけるきっかけにもなるのではないのでしょうか。高座渋谷のように多くのボランティアの参加が得られれば、質疑応答で話された「綾瀬は送迎を要しないよう、子どものそばで学習教室を行うのが望ましい」という理想の形の実現に近づけるかもしれません。そういった相乗効果が生まれ、両事業がさらに発展していくことを期待します。

**【特定非営利活動法人 Small Step】**  
**(医療的ケアに関する啓発資料作成およびその配布)**

初年度の事業は計画どおり順調に進捗しており、特に医療的ケア児への理解促進に「絵本」という手法を用いた点は、創意工夫が感じられ高く評価されました。審査会意見を受けて、絵本の動画化を行い、YouTube で広く発信するなど、しっかりと対応が図られています。そして保育系大学や学会との連携を通じて、アカデミックな層や将来の保育人材へのアプローチが着実に行われていることに加え、制作過程そのものが組織内の人材育成や体制強化につながっている点も、団体の健全な運営姿勢として評価することができます。

一方で、活動が横浜市内にとどまり、神奈川県全域への波及効果が見えにくいことや、配布地域・部数などの計画が不明確である点が課題と考えられます。また、収入基盤が不安定な中で「5冊制作」という数値目標に固執し、無理が生じないかとの懸念もあります。費用の削減を図るため、データでの配信に力を入れるとのお話もありましたが、資金調達手法を含めた現実的な収支計画の再検討が求められます。今後は、出版後の活用方法や効果の検証に一層注力し、研修等での活用や施設における変化を可視化することで、より深い啓発効果へとつなげていくことが期待されます。

## **(2) 新規事業**

### **【一般社団法人 市民連帯経済つながるかながわ】**

#### **(共生型居場所ネットワーク構築事業)**

本事業は、地域に点在する居場所を有機的につなぎ、孤立の予防と早期支援につなげようとする構想であり、今日的課題に対する的確な問題意識が評価されました。協同労働を基盤とする市民主体のネットワークとこれまでの実践蓄積を活かし、伴走支援や連絡会・フォーラムを通じてノウハウ共有を図る点に先駆性が認められます。プレゼンテーション及び質疑応答においても事業理解が十分であり、実施体制の安定性が確認でき、採択となりました。

この事業では、ネットワーク形成や伴走支援が、地域の居場所づくりに取り組む団体の活動の質や持続性の向上にどのように結びつくのか、協同労働にかかわるネットワーク団体としての強みを生かした取組が期待されます。一方で、地域にはすでに多様な地域の居場所の取組があります。協同労働を軸としつつも、多様な主体の自主性を尊重し地域に開かれた枠組みとして運営していくための具体的方策を継続的に示すことが求められます。さらに、連絡会やフォーラムが目的化することなく、地域の居場所づくりに実質的に還元される設計と検証が重要です。

本事業が地域の活動団体に対して協同労働というひとつの新たな選択肢を提供し、また、地域の多様な主体を結びつける公共的基盤として成熟し再現可能なモデルとして発展していくことを期待します。